

【随筆】

4月と言えば新年度なのですが

住 吉 尚
(釧路支部)

新年度となり、いろいろな団体の決算や予算の決定、そして総会が控えています。皆さん同じ状況でしょうが、例の「新型コロナウイルス」のため、会議が開けず苦慮していますよね。この先どうなるのでしょうか？幸いなことに、北海道は爆発的な感染拡大にはなっていませんが、東京での感染拡大が新年度の人事異動と重なって、再び道内で感染拡大が起こることがありそうで心配ですね。そして札幌では爆発的ではないものの感染が止まりません。北獣の理事会も、6月の代議員会も積極的には行きたくありません。高齢者はリスクが高いと聞けばなおさらです。釧路も理事会やら総会をどうするのか悩むところです。

不要不急の外出の自粛要請が出ていますが、一人で車に乗り人がいない場所を走り回るのは問題ないでしょう。と言うことで今日は西へ向かい、十勝太のガンの群れを見に行きました。庶路を過ぎたあたりでしたでしょうか、上空に10羽ほどのガンの群れ、多分ヒシクイでしょう。斜め一列にきれいな竿になって東へと飛んでいくのが見えました。今日は釧路湿原まででしょうか？それとも一気に風蓮湖まで行くのでしょうか？直別の踏切で遮断機が下り、車を止められました。通過していったのは「特急おおぞら」でしたが、私の眼には乗客の姿は確認できませんでした。新型コロナウイルスのせいで人の移動が極端に少なくなっているのでしょうか。北獣理事会も一度は延期となり、その後中止の連絡が来て、JRとホテルのキャンセルをしましたから皆さんも似たような状態なのでしょうね。土山にガンが数羽見えたので、写真を撮りました。前に写っている1羽はいかにも私がオオヒシクイですと言う感じがしました。すらりとした首、頭から嘴の先端までのラインがハクチョウそっくりです。幾分体が白っぽいのはご愛敬でしょうか？そして後ろに写っている1羽は黒っぽく首が短く嘴が太短いので亜種ヒシクイなのではないか？などと思い、ワクワクしながら帰ってから写真を大きくして眺めてみました。何とさほどの違いが見当たりません。幻の2亜種の撮影だったようで、要するに私にはこの2亜種の違いが全く分から



オオヒシクイでした

ないと言うことです。この日の十勝太ではヒシクイ、マガン、シジウカラガンの3種を見ましたが、一番のお目当てだったハクガンは見当たりませんでした。ヒシクイとマガンは数が多いので、遠くから見ても数百と言う大きな群れが飛ぶのが見えます。この群れは未だここを離れる気がなく、餌場を求めてあちこち飛び回っているようで、遠くへ飛ぶ時のようにカギになったり竿になったりと言うような、きれいな編隊飛行にはなりません。時には数千羽と言う大きな群れが飛ぶ時もあり、雲が湧いたような感じで壮観です。群れの真下にいるとガン類は体が大きいだけに羽音も大きく、ただただ口を開けて空を眺めています。

次にエゾシカの大きな雄の写真を載せてみました。背景は海、食べているのは打ち上げられて乾きかけている海藻です。距離は私の車から40mほど、これはおおよそ電柱一本分ぐらいの距離です。実はこの半分ぐらいまで近づいたのですが、道路ののり面脇の土山が邪魔になって口元が良く見えなかったので、少し離れて写真を撮りました。もう4月ですからぼつぼつ角が落ちる時期です。そのため、角が白く枯れたように見えます。エゾシカの雄は4月に古い角が落ちます。そして5月には新しい角が伸び始めるのです。この時、新しい角のために大量のミネラルが必要になりますから、私が近づいても無視して海藻を食べていたのでしょうか。大きな角を付ける大きな雄ほど大量のミネラルが必要なのでしょうね。ただこの個体はあばら骨が浮いていて、毛の上からでもはっきり見えるほどですから、別に何か病気でも持っているのでしょうか。冬毛も間もなく抜け落ちるからでしょう、ずいぶん白っぽくつやがなくなっているようです。このため、道路脇の枯草と大変よく似た毛の色になります。そんな理由からか、シカが交通事故に遭う場面



海藻を食べるオスジカ

をよく目にする時期でもあります。先日は道路上で大きな雌のエゾシカを見ましたが瀕死の状態でした。近くに3月18日にクマを目撃したとの情報を伝える看板を見ましたから、まだ山菜が出ていない時期に冬眠から覚めたヒグマにとっては、こんなエゾシカが重要な餌になっているのでしょう。

新型コロナウイルスで世界中が大騒ぎをしていますが、4月ももう中旬。すっかり春と言う季節です。2日の木曜日に今年初めてヒバリの鳴き声を聞きました。そろそろ山菜採りのシーズンですが、今年は例年になくヒグマの出没情報が多いので、充分注意をしながら楽しんでください。釧路川近くの小さな沼の縁で今年もタンチョウが抱卵しているのが見えました。写真を載せてみましたが、見ての通りにヤナギのブッシュの中での抱卵です。この場所で繁殖するタンチョウを観察するのはもう5年以上になるでしょうか。私が最初にこの沼での繁殖を見つけた時は、沼の縁の見晴らしの良い場所で抱卵していました。2年ほどはほぼ同じ場所で抱卵していたのですが、その後は少しずつ沼の縁を離れて木が生えた場所へと抱卵場所を変えて行き、今年は沼の縁からは20m以上離れたヤナギの林の中での抱卵です。タンチョウは普通、片側には水面がある場所で、ヨシ原のような開けた場所で抱卵します。これは地上で抱卵するため地上からの外敵をできるだけ寄せつけないこと、そしていつでも逃げ出せる場所を選んでいるためです。林の中では大きなタンチョウが十分に翼を広げることができません。サッと逃げ出すには良くない場所なのです。でもなぜこのタンチョウは林の中を選んだのでしょうか？一つ考えられるのは人目です。時々人間がこのタンチョウが見える場所に来てじっと観察をする、と言うのが耐えられないほどのストレスである場合です。私が観察をするのは



ヤブの中での抱卵

長くても2～3分でしょうか。そして今抱卵を確認したので、今月末ごろもう1回、そしてまだ抱卵していた場合は1週間後にもう1回、と言う所でしょうか。でもこれは私だけの観察回数です。もしかすると、私以外にも何人も人が観察に訪れているということも考えられますね。特にタンチョウの良い写真を撮ろうとしている人にとっては、ブッシュの中のタンチョウは写真になりにくいので、こんな人を避けるには良い選択肢なのかもしれません。そしてもう1つ、地上からの敵よりもっと恐ろしい敵が、上空から襲い掛かるのを防ぐため、と言う場合もありそうです。上空からの敵と言えばそれはオジロワシです。ワシもまた大きな鳥ですからブッシュの中までは攻撃してきません。最近はこのように林の中やブッシュの中に巣を作るタンチョウが多くなっていますが、これは個体数が増え、空いた繁殖適地が少なくなったためと考えられてきました。一方では、タンチョウの個体数は最近増えてはいないと言う報告もあり、単に繁殖適地がなくなりつつある、と言うだけではないような気がしています。なんと言っても同じ繁殖場所を使いながら「より藪の中へ」と言う選択肢を選んだ個体がいることは確かですから。そしてこんなこともタンチョウをより良く知るきっかけになるような気がしています。

新型コロナウイルスの感染予防のため「外出の自粛が最も効果的だ」と言われていますよね。でも釣りに行ったり、山菜採りに行ったり、と言うのは全く他人との接触がないので問題はない！と考えていますがどうでしょう。

先日はクマガラの求愛のコールを聞きながらチカ釣りをしました。この時期のチカは産卵期ですから大群で集まります。でも数が多い割に餌を食べる個体が少ないので、それほど釣れませんがこれも面白いものです。こ

うしている内にカレイも釣れるようになってきました。先日友達に誘われて今年初のカレイ釣りに行きましたが、まだまだ早いようで釣果はさっぱりでした。その後リベンジとばかりに出かけてみましたが、今度は潮が早く釣りになりません。これで頑張っても良い結果にはなりませんから、午前中はクレソン採りをしてから開いている食堂に入り早めの昼食を取り、さて今度は釣りです。なんて一日中遊んで帰って来ました。タンチョウの交尾のコールを聞きながらの釣りなんて優雅なものですよね。山菜は採って来てから、食べられるようになるまでが大変ですよ。クレソンはあまり手間がかからないのですが、それでも何回も洗い、ごみを取ってと綺麗になるまで冷たい水に入れての作業があります。やっと釣ったカレイは生きが良いので刺身に作って美味しくいただきました。以前の日記を読み返すと、今年は特にカレイが早く釣れているようです。どうやら海の中も暖冬傾向が強く、以前より魚の動きも早めになってきているのでしょう。十勝川河口部のガンの群れも4月も半ばと言うのにほとんど見えなくなっていました。タンチョウは抱卵中ですから、いても1羽だけと言うことですから、鳥を見るのには良い季節とは言えません。でもそろそろ夏の鳥が飛来し始めています。ホオジロは特に珍しい鳥ではありませんが、ここ釧路管内では繁殖期にはあまり見られません。でもこの時期なら移動途中の姿が見られることも多いので楽しみです。釣りのついでにいつもサンショウウオが産卵する水たまりをのぞいてみました。今年もいつもの年と変わらず、卵塊がありました。卵塊の数も少し増えたかな？と思うほどで、ここのエゾサンショウウオの個体数は維持されているようでほっとしました。細長い卵塊がらせん状になってかたまっています。この卵塊は1頭の雌が1対2本の卵塊を産みます。この

2本は1カ所で木の枝や枯草にくっついてあります。これがカエルの卵との大きな違いです。そしてそろそろカエルも産卵期です。皆さんがこの文を読む頃にはエゾアカガエルの合唱が湿原に響いていることでしょう。早く新型コロナウイルスが終息に向かい、何時ものような日常が戻ってくれば良いのですが。息が詰まりそうですね。

(現代漢詩)
 北歐発阻温暖化
 無視大国爺首长
 疫病蔓延地球的
 皮肉結果冷却化
 (都々逸)
 ヒト限定
 生きる権利の
 高い壁
 牛馬豚鶏
 すぐ処分
 権利倫理の
 壁は無し
 偽憂乳ぢい (雄武町)



エゾサンショウウオの卵塊

(句題) 薫風 くんぷう
 「吹流し薫風孕む高速道」
 「風薫る店先飾る種袋」 かぜかを たねぶくろ
 「町内男子誕生鯉幟」 をのこ
 (室蘭市 白波瀬 稔歳)

